

「うれしい『かわいい』はどちら」

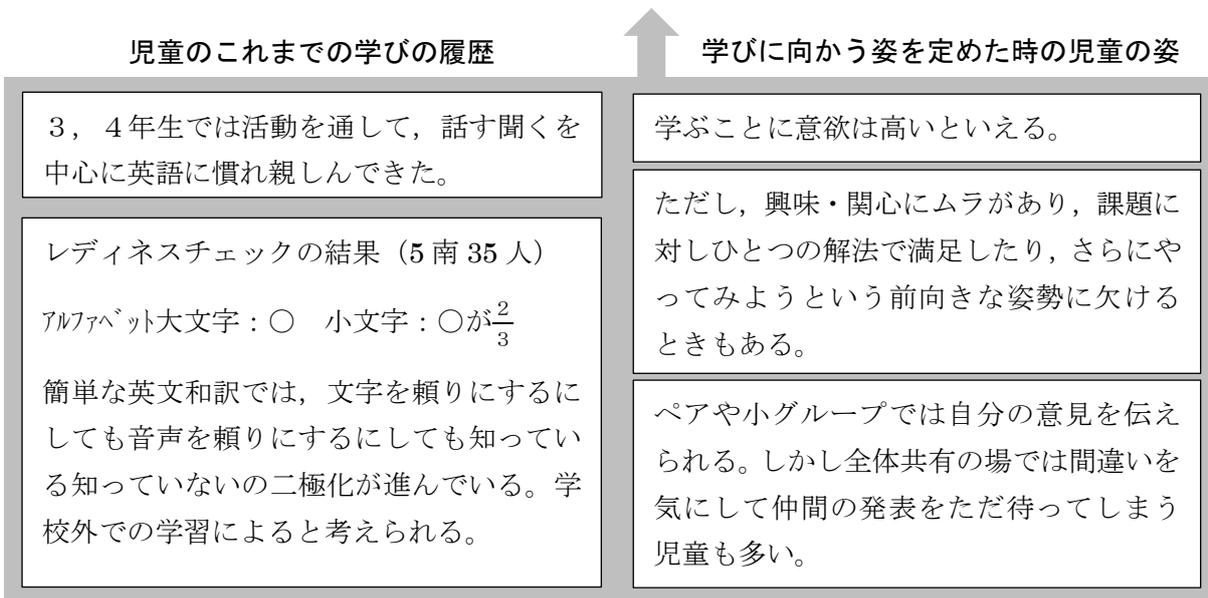
～ 外国語活動→○→外国語 ～

1. 学年・組・場所 第5学年南組（35名）

2. 授業デザイン

(1) この学年でめざす学びに向かう児童の姿

主体的に学ぶ姿	協働的に学ぶ姿
学ぶことに興味・関心を持ち、自ら問いを見つけて粘り強く取り組んでいる。	問いに対して自分の考えを明確に持ったうえで仲間と比較し、考えを深めている。



(2) 教材について

外国語科の授業づくりはまっさらだといえる。6月に指導要領解説が出るのを控え、教科書も作られつつあるのだろう。外国語科としての先行事例はなく、かといって中学校の1年生の教科書を使って授業をするのも違う。また次期学習指導要領の目標と内容を見る限り、外国語活動とは完全に一線を画すものである。そこで外国語の目標にある『実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付ける。』を頼りに、～外国語活動→○→外国語～の、○のあたりを見据え教材作りを行った。ねらいとしては日本語訳すると同じになる形容詞の微妙な違いを感じ取り実際のコミュニケーションに活かす素地を作ることである。ネイティブスピーカーとの実際のコミュニケーションの場ではミスコミュニケーションが往々にして起こる。外国語を仕事のツールとしているのであれば別だが、仲間内であれば相手がおおよそ汲み取ってくれるだろう。しかし、日本語にしたときに“賢い”と訳される英単語を例に取ると、場面によっては意図に反して伝わる。「あなたの意見に感動した！今の気持ちを伝えたい。」と考えながら“You are clever!”と言ってみる。真意は伝わっているだろうか。もし伝わっていなければ次の手を打つ。これがコミュニケーションにおいて活用できる技能だろう。

(3) 授業提案

深い学びのための重点			
思いや考えを基に創造している。	知識を相互に関連付けてより深く理解している。	情報を精査して考えを形成している。	問題を見出して解決策を考えている。
		◎	

英語を学んでいる過程で一番楽しい、嬉しいと感じるのはどういう時だろう。英語を使ったゲームでチームが勝利した時か。または語彙が増えたり、新しい構文を知ったりしてペーパーテストの評価が上がった時か。経験上、自分の話した英語がネイティブスピーカーに伝わった時に「通じた！」という嬉しさがこみ上げる。言語の指導効果が最もあがるのは、伝達のために言語が使われるときであって、意識的に学習させようとして、理路整然と教えられる時ではない。相手に自分の思いが伝わった時が楽しいし嬉しいのだ。そして「次はこんなことを伝えたい。」という意欲につながる。さて教室での英語の授業の中でそんな経験を味わわせることはできないだろうか考えた。漫画や画像などから得た情報を整理し、思考をめぐらすことで体得させつつ、伝わって楽しい疑似体験を取り入れた授業を提案する。またこれまでの外国語活動では黒板は主に情報を提示したり、ゲーム板としての役割を担ってきた。書くことを視野に入れ、学習をまとめたり思考を促すための板書にもこだわりたい。

3. 単元目標

- 【知識・技能】 外国語の語彙について、日本語と外国語の違いに気づき、これらの知識を理解するとともに、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付ける。
- 【思考・判断・表現】 相手に応じて人物像について聞いたり話したりするとともに自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
- 【学びに向かう力】 他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力
人物像を表す身近な英単語について知り、話したり書いたりすることができる。	人物像を伝えるときに、相手に応じて適した英単語を判断することができる。	友達や相手に配慮しながら、自分の考えを伝えようとする。

5. 単元計画（本時 1 / 3）

次	時	内容
1	1	相手に応じて人物像について自分の考えや気持ちなどを伝え合う
	2	□□の活動を通して、日本語訳すると同じになる動詞の違いについて考える。
	3	日本語訳すると同じになる簡単な文の違いについて考える。

6. 本時の目標

ほめ言葉を考える活動を通して、相手に応じて自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。

7. 指導言を中心とした本時の展開 及び 予想される児童の発言・行動

[かまえる]

あなたは、○○○○ですね。

やさしい。かわいい。かしこい。イケメン。
簡単な日本語で導入し、かまえをつくる。

[のぞむ]

どんな場面でしょう。

F2

3年 国語上の「きちんとつたえるために」の4コマ漫画を転用しミスコミュニケーションが生まれている場面について考える。同じ「かわいい」でも見ているものが違うと pretty と cute が使い分けられていることに気づかせる。
「かわいい に違いがあるのかな」
「使い分けがいきりそうだ」

[ひらく]

pretty と cute はどのように使い分けをすればよいでしょう。

F7

プレゼンテーションソフトでスライドを作成し、モニター内の人物や動物などを疑似的にほめる。
しっかりと繰り返し発声させることと、You are をつけて相手意識を持たせることを段階的に行う。
自分が感じていることと、相手がどう受け取るかを混同しないように注意が必要。

「You are pretty.」

「You are cute.」

F8

モニターに映る人物や動物を見て、反応を確かめながら分類していく。同じかわいいでも意味の違いがあることを読み取りまとめる。

「pretty は人間に使うみたいだ」

「動物には cute を使うみたいだ」

「赤ちゃんにも cute を使うのかな」

【評価】人物像を伝えるときに、相手に応じて適した英単語を判断することができる。(判断)

[ふかめる]

smart wise clever を使い分けられるかな。

辞書を引いてもなかなか区別がつかない「賢い」という英単語。本時では3つを取り上げるが他にも数多くある。ペアをほめ、相手の表情を読み取りながらそれぞれの意味の違いを考える。

「smart は頭が切れるがピッタリ」

「wise は物知りで賢いという意味がありそう」

「clever はスポーツでよく聞く」

[ふりかえる]

友達に伝えてみよう。

You are pretty, cute, smart, wise, clever. 相手を見て考えながら伝え合う活動を通して、体得できるようにしたい。また言われたときの感想も共有する。

「You are pretty. と言われました。恥ずかしいけれどうれしかった」

「女子に You are cute. といわれて複雑です」

「〇〇君が You are smart. と言ってくれました。うれしかったです」

8. 指導者の思い

「外国語（英語）を学ぶ。」には三通り意味がある。（「英語で学ぶ」は別カテゴリー）

1) 英語を意思伝達のためのツールのひとつと考え、運用能力を高めていく学び

Speaking や Writing のテストも導入された TOEIC (Test of English for International Communication) や IELTS などがその指標となる。古くは江戸末期から明治期、英語がわからないと、外国の進んだ科学技術などが学べないという必要に迫られた英語教育がはじまり。

2) 英語を学問としてとらえ、文学や構造、変遷などを探究する学び

明治末期から大正にかけて、実用的な英語から教養中心の英文学が好んで学ばれ今日に続く。

3) 受験英語

目指すことが違えば教え方や学び方、開始年齢なども論は尽きず、あらゆる研究が進んでいる。しかし次期学習指導要領では、小・中・高を通じて「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、四技能に係る一貫した目標が定められた。つまり英語を学問として深く追求していくのではなく、ましてや受験のためではなく運用能力を高めることにこれまで以上に重点が置かれるようになった。

第二言語を運用するレベルまでの習得は本来つらく苦しい学びであると思う。反復と訓練、通じなくてもあきらめない粘り強さが求められる。これまでの外国語活動は「英語に慣れ親しむ」という目標のもと、「英語って楽しい。英語の授業が好き。」と児童に感じてもらうよう、ゲームなどを中心に**活動的に楽しい**授業が作られてきた。しかしこれからは「英語を使って何ができるようになるか」を見据え、**知的に楽しい**授業づくりが求められる。その意味で小学校外国語は大きな転換期にある。情報を多く集め、世界に躊躇なく飛び出していける人材を育てるべく、外国語の授業研究を進めていきたい。

(以下、参考：次期外国語指導要領 抜粋比較)

現行（外国語活動）	次期（外国語）
<ul style="list-style-type: none">外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験する。日本と外国の言語や文化について体験的に理解を深める。聞く、話す	<ul style="list-style-type: none">外国語での実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付ける。日本語と外国語の違いに気づきこれらの知識を理解する。(外国語を用いて) 自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。聞く、読む、話す、書く